

技術で未来拓く

(247)

—産総研の挑戦—

生活圏に隣接

全国に分布する活断層のほとんどは、人々の生活圏に隣接しているため、活動すると甚大な被害を及ぼす。活断層で発生しうる地震の規模や過去の活動履歴などを明らかにする

ことは、防災対策を考える上で重要である。我々は、全国の活断層を対象として、活断層評価を行ってきた。

熊本地震後

2016年4月に発生した熊本地震は活断層が活動した事例である。我々は、地震活動に伴う地割れ（地表地震断層）を調査し、地表地震断層の位置、変位の様子、変位量の分布を明らかにした。これらは地震時の断層の動きを知る基礎データとなる。

地震活動の履歴解明

地表地震断層は風雨による浸食や災害復興

による修復によって失われやすいため、熊本

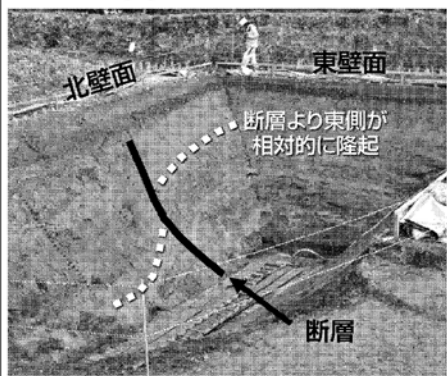
野—白旗区間では、北

トレンチ調査

での広範囲を迅速に調査する必要に迫られた。活断層を調査できる総勢13人の研究者を招集し、約3週間で主要な箇所について現地調査を完了した。実力ある研究者がそろった

接する日奈久断層帯高なかつた。該区間の山出地区において断層を横切って溝を掘削し、露出させた

山出地区のトレンチ



(産総研提供)

は正確に把握されていくべくトレンチ調査を実施した。調査では、当該区間の山出地区において断層を横切って溝を掘削し、露出させた

また、当該区間単体の活動では説明できない規模の変位が一部の調査で明らかになった。これは、隣接する

産総研 地質調査総合センター 活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループ 研究員 白濱 吉起



プロフィール

変動地形学を専門とし、入所以来継続して活断層の評価業務に携わっている。地形解析やトレンチ調査、種々の年代測定技術を組み合わせているが、たいてい一筋縄ではいかない。評価の精度を高められる新しい技術があれば柔軟に取り入れ、研究を進めていきたい。

帯においても同程度の頻度で地震が生じている。山出地区は、国や地方公共団体などでの防災対策に活用される。今後、被災への備えに貢献すべく、信頼性の高いデータを提供していきたい。

(木曜日に掲載)